

南アフリカ 柑橘類種苗の規制強化で品質向上へ

Farmers Weekly 2023年9月25日

増殖に関するより厳しい法案が提出され、南アフリカの柑橘類産業は品質向上に向けた後押しを得ることとなる。業界で20年にわたる協議プロセスを経てきた柑橘類改善スキーム(CIS)がまもなく制定される。

トコ・ディディザ農業・土地改革・農村開発大臣は7月末に、CISに関する通達の内容を承認した。その後、最終決定と公布の前に、書面によるパブリックコメントを得るために政府の官報に掲載されている。

柑橘類研究所(CRI)は、このスキームから生じる果樹の増殖におけるバイオセキュリティと品質管理の強化を歓迎している。

CRIのスキーム管理者であるポール・フォーリー氏は、このスキームにより、純正な柑橘類の素材から作られ、有害な病原体を含まない最高品質の苗木を栽培者に確実に供給することができ、最終的には南部アフリカ諸国の柑橘類産業の収益性が高まると述べた。

このスキームでは、柑橘類の苗木を繁殖・販売する種苗業者の苗園で、より厳格な手順が必要になる。このスキームが実施されれば、苗園は監査を受け、認証を得る必要がある。認証は、エキビョウキン(疫病菌)及びセンチウ(線虫)がいないと認定された苗園で苗木が栽培されること等のスキーム基準に準拠していることを保証する。

フォーリー氏は、このスキームは、バイオセキュリティとトレーサビリティの向上など、業界に複数のメリットをもたらすとしつつ、「しかし、苗園で生産される接ぎ木の割合が減る可能性があるなど、不利な点があることも認識している。苗園の能力が限られていることも懸念事項である」と述べた。

一方、柑橘類業界の基準を高める南アフリカの取り組みは世界的に認められてきている。最近、バイオゴールド(Biogold)グループのマネージングディレクターであるヴィレシュ・ランブラン氏が、「国際栄養繁殖性花き・果樹育成者権者団体(CIOPORA)」の理事会メンバーに任命され、アフリカ大陸から初めてこの立場でこの機関に参加することとなった。これは、アフリカの視点を議論の場にもたらし、世界レベルで南部アフリカの育種家の利益を促進するのに役立つ。

ランブラン氏は、栽培者にとって植物の新しい栽培品種は重要な戦略的及び競争上の優位性をもたらすものとして、「したがって、新しい品種の導入、保護、商業化は非常に重要である。私はこの業界の課題と現状を非常に現実的に理解しており、CIOPORAでの立場を利用して、イノベーションを促進し、世界中の植物育種家の権利を保護する知的財産保護システムを形成することを目指す」と述べた。

執筆者: リンディ・ボータ